

校内研究活性化プロジェクト研究通信

第7号 令和5年(2023年)9月15日発行

残暑厳しい折、息つく間もないほど忙しい日々を送られ、体調を崩しておられないでしょうか。プロ研通信第7号では、8月23日(水)に開催されましたY小学校の校内研究会の様子をお伝えします。

今回のY小学校での校内研究会の目玉は、テーマ別G-OJTです。これまでのプロジェクト研究会でのZ中学校やA中学校における実践紹介をもとに、Y小学校の校内研究主任がグルーピングから工夫して実践されました。テーマ設定や編制人数などの工夫が見られ、大いに盛り上がった校内研究会でした。

Y小学校 校内研究全体会概要

Y小学校 研究主題

課題に向き合い、他者と交流する中で、自分の考えを再構築しようとする子どもを目指して

注目ポイント

- ・プロジェクト研究会での学びを生かした校内研究会
- ・研究委員の学びと抽出教員の学びのつながり

グループ協議

校内研究会の流れ

1. グループ協議①
2. 国語科の事例紹介
3. グループ協議②

今回、Y小学校の校内研究会では、G-OJTを取り入れた研究会が実施されました。グルーピングについては、「校内研究・自己分析シート」(Y小学校版授業アップデートシート)に書かれた個人の課題をもとに校内研究主任がグループを編制され、先生方一人ひとりに参加したいグループの希望をとって決定されました。グループ協議は二度行われ、一度目はテーマを選んだ理由や個別の課題等を共有し、二度目は2学期以降の具体的な取組やグループの目標を考えました。

一度目のグループ協議では、交流する内容が先生方自身の課題に感じていること等であったため、協議時間が始まると次々に先生方が話をされていました。参加者一人ひとりが校内研究を自分事として捉え、課題意識をもって校内研究会に参加されていることが感じ取れました。

国語科の事例紹介をはさみ二度目のグループ協議では、グループとして2学期に実践することを協議されました。一度目の協議で課題意識を共有できているため、課題解決の手立て等が具体的に挙げられる場面もあり、翌週からの授業で実践に生かすことができる内容が盛り込まれた協議となりました。二度目のグループ協議の内容は、全体でも共有され、「最後に他のグループのいろんな見方や意見が聞けたのでよかった」と話されていました。



グループ協議の様子

Y小学校教員へのインタビュー

今年、10月に授業研究会で授業をされる中堅のA先生に、全体会終了後にインタビューをさせていただきました。

<インタビュー①>

校内研究や研究授業を引き受けたことに対する率直な気持ちを教えてください。



私にとって校内研究はすごく大きなものと思っています。毎時間の教材研究をきちんと行ったうえで授業に臨むものですが、特に研究授業は、先生方と協議をしていく中で新たな発見をしたり、新しい取組を見つけていったりする発展的なものと受け止めています。ただ、校内研究で授業を見るのは勉強になりますが、授業をするのは一年の仕事の中で一番大きいことと思うくらい負担があるものと思っています。指導案検討ではいろいろ考えて、でもなかなかいい考えが出てこなくて自分なりに悩みながら、学年の先生達とも詰めていきながらやったりしています。それでも、事後研究会ではよい意見も出てきますが、やっぱり反省点も見つかるので、“事後検討会は傷つくもん”みたいな感じで思っています。それが新たな発見にもなって、自分が変わっていくという意味ではすごくよい時間なのかなと思っています。

自分にとっては大きな変化があるものの一つが校内研です。だから、毎年毎年、自分自身が変わっていったのかなと思います。今年であれば、校内研究のテーマが特別活動から国語という教科にガラッと変わったので、そこを大切に、授業を考えていかなあかんって自分の意識は変わっているのかなと思います。

<インタビュー②>

今年度の校内研究での新しい取組についてどう感じていますか？

特に今日は、共通の課題をもつ人でグループを作って、意見を出し合えたのは新しいし、いいと感じました。悩んでいる部分をすごく共感できたり、改善策を出し合ったりできたので、2学期はそこを意識して頑張ろうと気持ちの整理ができてよかったです。さらに、グループ協議を通して課題と目標が明確になったので、その課題に対してどんなことができるのかなとか、困った時があったら聞いてみたいなと思いました。そういう意味で、大事なきっかけとなるよい時間になりました。

<インタビュー③>

今日の取組を通して、子どもに求められている「個別最適な学び」や「協働的な学び」が具体的にイメージできるようになりましたか？

私のグループでは、交流を活発にできるための設定や手立てを協議したので、それがうまくいかない共通点がやっぱり何個か見つかりました。細かい具体的な部分までは詰められていないかなと思いますが、自分が考えていかなあかんこととか、変えていかなあかんこととかははっきりしてきました。この後、じゃあ何ができるだろうと考えて、新しい視点を見つけたいかなあかんと思っています。

<インタビュー④>

A先生自身が考えている自身の課題を教えてください。

今年の研究主題、「自分の意見を言えて相手の意見も聞いて自分の意見を再構築できる」を目指そうと思っています。それに向けて、再構築する難しさは私自身感じているので、子どもたち自身が再構築できる力を付けられるための指導の手立てを考えて実践ができれば、自分にとって成長の一つになるのかなと思います。

<インタビュー⑤>

今日2回目のグループ協議でグループの目標を設定しましたが、個人の課題解決のために取り組もうと思われたことはありますか？

グループでは「ゴールを示す」という目標を設定したので、私は「授業等での活動を通して何ができるようになるとよいか」を示していきたいと思っています。それと、子ども任せにしないようにしようとも思っています。子どもたちがより充実した学びになるように、教師は何かできるのかということを考えて授業をしていきたいと思いました。



校内研究を自分事として捉えて、研究会や実践に臨んでおられる姿勢が印象的でした。突然のインタビューだったにも関わらず、快く引き受けてくださったA先生ありがとうございました。

校内研究主任へのインタビュー

校内研究会の後、校内研究主任に次の二つのことをインタビューさせていただきました。



Y小学校の
校内研究主任



Y小学校の校内研究通信「つみき」

<質問①>

研究会を終えてどのような感想をもたれましたか？

それぞれの先生方にとって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある研究会になったのではないかと思います。昨年度の中学校における実践から学んだ、研究主題に沿った個人の課題をもつことは、小学校においても実現可能かつ有効だと思いました。

なぜそう感じたかという点、研究会後の先生方の反応がとてもよかったからです。「話し合ったことで、自分の課題が整理された」「初めは何も話せないと思っていたけれど、同じ悩みをもつ先生方と話して楽しかった」「話し合いタイムが1番勉強になった」「〇〇チームの目標がおもしろかった」など、いろいろなプラスの意見をお聞きすることができました。

こちらからトップダウンでお伝えしないといけないこともあります。先生方自身に多くの時間を委ね、任せることが、校内研究という学校全体の学びの上で、最も有効で近道なのではないかと気付かされました。

<質問②>

次の校内研究に向けて課題はなんだと思いますか？

個別の課題を実践につなげていくための仕組みを研究会に組み込んでいくことが課題です。今回の研究会では、それぞれの先生方の悩みから目標までを話し合ったので、その実践を交流する場を研究会の限られた時間内でもちたいです。そのためには、1学期に取り入れていたワールドカフェ形式での交流を続けるのかなど、研究会の中身で本当に必要なものを精査しないといけないと思っています。また、話し合った先生方の中には、選んだテーマが難しく、そのテーマの意味の共通理解から始めなければならなかったチームがあったようでした。今後、そのチームリーダーさんとの話し合いをして一緒に整理する必要があると思います。



1学期の取組について協議する学力部会の様子

そして、今後出てくるであろうと予想している課題は、「学年部での話し合い」をもつことをやめて、「同じ個別の課題をもつ先生のチームでの話し合い」にシフトしたことで、学年毎の積み上げが見えにくくなってしまふかもしれないということです。今年度は2学期で全ての授業公開が終了する予定なので、3学期に「学年毎の積み上げ」と「個別の課題解決から見えてきた成果」の両方を整理したいと考えています。

そして、今後出てくるであろうと予想している課題は、「学年部での話し合い」をもつことをやめて、「同じ個別の課題をもつ先生のチームでの話し合い」にシフトしたことで、学年毎の積み上げが見えにくくなってしまふかもしれないということです。今年度は2学期で全ての授業公開が終了する予定なので、3学期に「学年毎の積み上げ」と「個別の課題解決から見えてきた成果」の両方を整理したいと考えています。

Y 小学校の校内研究会の参観を終えて、研究員の思いと今後に向けて

教員一人ひとりが校内研究を“自分事”として捉えることができるように、工夫して校内研究を計画・運営されている校内研究主任の取組の成果が表れた場面をたくさん見せていただきました。今後は、先生方の学ぶ姿が授業での児童の学ぶ姿にどのような変化をもたらせるのかを一緒に見取

っていきたいと思っています。加えて、今後、各校を訪問し、同じように研究委員のみなさんの学びが形となって表れているところを参観させていただきたいと考えています。校内研究を通して、教員一人ひとりが生き生きとした表情で学んでいる姿が見られることを楽しみにしています。



研究員 いぬます けいご 稲益 圭吾



研究員 しまうち ゆうしょう 島内 佑祥

第6回校内研究活性化プロジェクト研究会のお知らせ

会場校：Y 小学校

日 時：令和5年10月11日(水)12:40～16:40

今回のプロジェクト研究会では、Y 小学校の校内研究と教員の学びのつながり、そして児童の学びへのつながりを参観させていただきます。また、校内研究会にも参加させていただきます。その後、授業と校内研究会での学びをもって研究協議を行います。よろしくお願ひします。